

【概況】

●22日、イスラエルとイスラム組織ハマスの戦闘休止交渉では、同国交渉団を率いる対外情報機関モサドのバルネア長官が22日、仲介国カタールを再訪問。プリンケン米務長官は21日、訪問先のエジプトでの記者会見で、交渉妥結への見通しについて「依然困難だが、可能だと信じている。(イスラエルとハマスの)溝は埋まってきている」と述べた。中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー供給不安が幾分和らぎ、原油は売りが優勢、相場は80.63ドルへ続落しました。

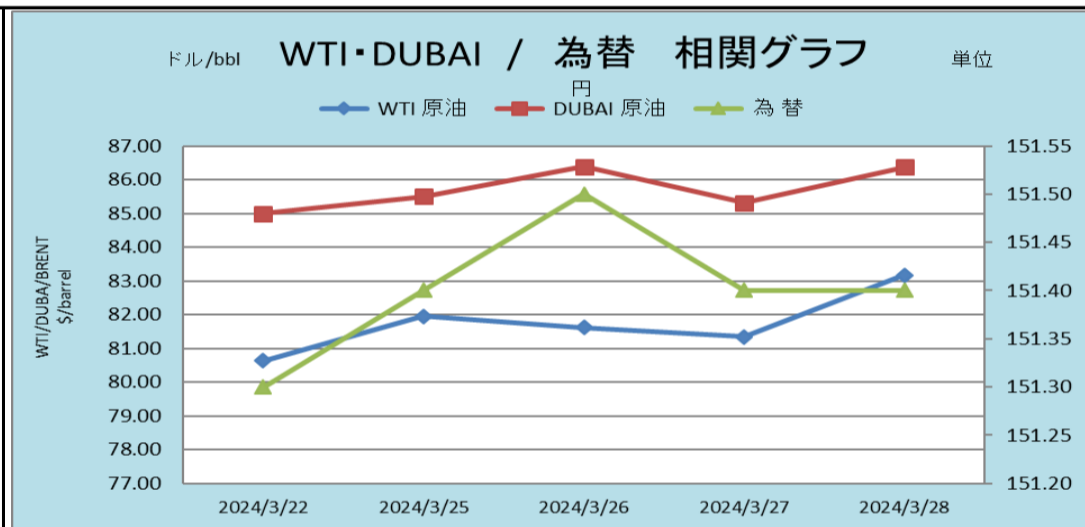
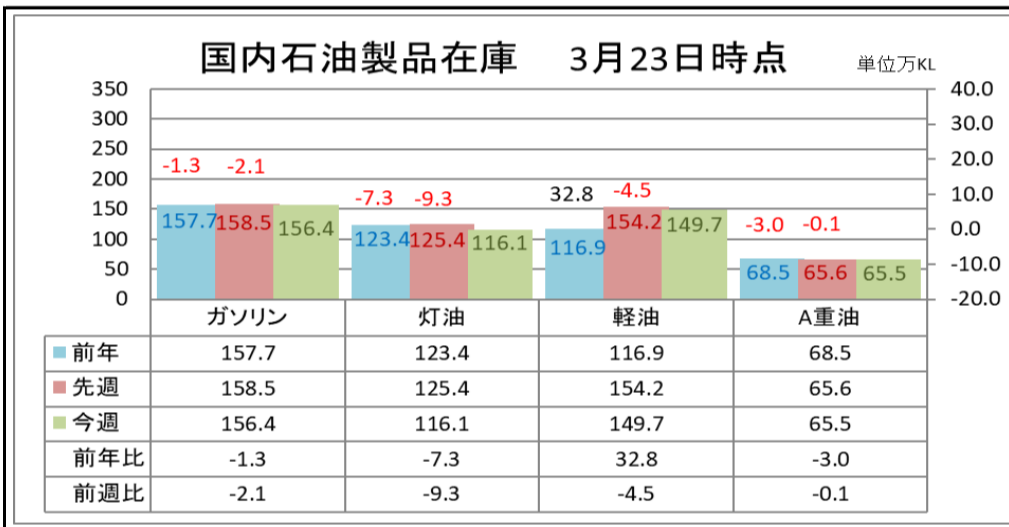
●25日、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が3月初旬に合意した自主減産継続の順守に向け、ロシア政府が石油企業に対し、4~6月期の生産を抑制するよう命じたと伝わったことも、需給引き締め観測につながり、相場は81.95ドルへ反発しました。

●26日、イエメンの親イラン武装組織フーシ派は26日、過去72時間で、イエメン沖のアデン湾と紅海周辺で、船舶を標的に、6回のミサイル・ドローン攻撃を行ったと主張した。ロシアからの供給不安の高まりや、中東情勢を巡る先行き不透明感が原油買いを支え、上昇する場面もあった。ただ、翌27日午前にかけて官民の米在庫週報の発表を控え様子見ムードも漂っており、相場は81.62ドルへ反落しました。

●27日、米エネルギー情報局(EIA)がこの日午前に公表した週報で、米原油在庫は320万バレル増、ガソリン在庫は130万バレル増。ともに予想外の積み増しとなったが、API報告ほど弱くなかったことから横ばい圏にいったん戻したものの、対主要通貨でのドル上昇に伴う割高感が重しとなり、相場は81.35ドルへ続落しました。

●28日、朝方発表された2023年10~12月期の米実質GDP(国内総生産)確定値が改定値から上方修正され、景気の底堅さが改めて示唆されたことも、エネルギー需要先行きを巡る懸念を幾分和らげた。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」が6月の閣僚級会合まで現行の生産方針を据え置く可能性が高いとの報を背景に、供給が引き締まるとの見方が台頭、相場は83.17ドルへ反発しました。

3月29日 16:00現在 WTI原油 83.11ドル 為替 1ドル 152.41円



次回元売変動予測 4/4~ 元売変動予測

ガソリン	➡	+0.7~+1.2
灯油	➡	+0.7~+1.2
軽油	➡	+0.7~+1.2
A重油	➡	+0.7~+1.2
L S A	➡	+0.7~+1.2

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+3.0円」、補助金は、「-23.3円・60%」、都合「+0.9円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの25日時点の小売価格平均は174.5円となっております。

《4月4日以降》次回の元売り改定は、原油コストは「+0.5円~+1.0円」、激変緩和補助金は「-23.1円・60%」の見込みで、都合「+0.7円~+1.2円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「0.5円~1.0円」
 ※激変緩和補助金「-23.1円」 前週比+0.2円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】 <燃料の一部にアンモニア 脱炭素化に向け火力発電所で実証実験>

脱炭素社会の実現に向けて、石炭火力発電の燃料の一部に、燃やしても二酸化炭素を出さないアンモニアを混ぜて発電する大規模な実証実験が愛知県碧南市の発電所で行われることになりました。

東京電力と中部電力が出資する発電事業者の「JERA」が運営する碧南火力発電所の4号機で、ボイラーやアンモニアを貯蔵するタンクなどが公開されました。JERAは、燃料の一部に燃やしても二酸化炭素を出さないアンモニアを混ぜて発電する設備を2027年から28年ごろをめどに実用化したいとしています。

今回の実験では、石炭火力発電の100万キロワット級の設備を改造し、燃料の20%をアンモニアにして、安定して燃焼できるかや、有害な窒素酸化物の排出を抑制できるかなどを確認するというので、早ければ3月26日に始める予定です。今後、会社では、アンモニアの割合を50%以上に高める実験も行うほか、2040年代にアンモニアだけで発電する技術の実用化を目指すことにしています。JERAの谷川勝哉碧南火力発電所長は「最終的には燃料をすべてアンモニアに転換することで、世界や国内で二酸化炭素を排出しない『ゼロエミッション火力』を推進できるよう技術を確認していきたい」と話していました。